



東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2024年10月25日発行

第10号(通巻第330号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

2024年度年末手当に関する申し入れ 基準内賃金の3.8ヶ月分を要求

中央本部は10月18日、申第3号として2024年度年末手当に関する申し入れを経営側に提出しました。

年末手当の要求満額実現に向けて、全組合員で取り組みを創り出しましょう！

JR東日本は7月31日に2024年度の第1四半期決算を発表しました。これによると単体では、営業収益が506.9億円、営業利益は100.4億円となり、4期連続の増収増益を実現しました。

またゴールデンウィーク期間やお盆期間のご利用状況はいずれも前年を上回り、コロナ禍以降、好調を維持しています。

訪日外国人旅行者数が8ヶ月連続で月ごとの過去

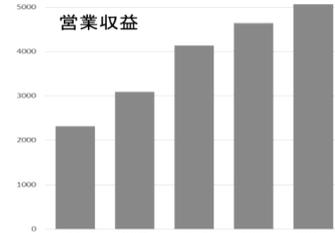
新潟地本で! 千葉地本で! 相次ぎ加入!



新たな仲間と 共にがんばろう!

組合側は「計画的な生活設計において社員が検討するのは時期ではなく支給額だ」と繰り返し主張したものの、経営側は「社員の生活設計」だけを理由に例年より早期の妥結を求めました。

その結果現場では、2024春闘で賃金は上がりながらも、夏季手当について



2024年度夏季手当について経営側は、「年収た」という声よりも、「2ヶ月の低額に抑え込まれた」という不満の声が多く上がりました。

低額に抑え込まれた夏季手当 抑え込まれた分を取り戻そう



生活設計の確立がなければ、JR東日本の持続的成長は実現できず、社員が納得のできる期末手当の支給が前提となります。

■ 本部申3号 要求項目 ■

- 2024年度年末手当は社員一律による「基準内賃金の3.8ヶ月分」とすること。
- 2024年度年末手当は2024年12月13日(金)までに支払うこと。

要求満額実現に向け 支部・分会で取り組みスタート

年末手当の要求満額獲得実現に向けて、新潟地本の各支部・分会で取り組みがスタートしました。

新潟地本に投稿があった各機関の取り組みを一部、紹介します。

●新潟運輸区分会

10月2日〜4日に計6回分会集会を開催して年末手当のたかひについて

●新潟駅連合分会

10月2日と4日、執行部ミーティングを開催し取り組みにむけて意思統一を行いました。

●新潟地区分会

10月3日〜5日に計9

は足りないとの声も多く聞かれます。

夏季手当で抑え込まれた分を取り戻し、努力と成果に相応しい年末手当を実現しましょう！

「年末手当」「会社」に対する これが社員の「本音の声」だ!

年末手当要求の提出に前後して、東日本ユニオンには多くの社員から、年末手当や会社に対する本音

の声を寄せられています。

●物価上昇で生活が苦しい。年末手当も夏の被害

での損失云々と言いつつ、業績は絶対調なんだから、ちゃんと社員の

ことを考えてくれなければ困る(酒田地区)

●夏季手当は2.7ヶ月に抑えられた。年末手当は最低でも3.5ヶ月以上

は出すべき(営業職場) ●会社は業績が好調なのに社員にはシッカリ還元



10月9日に分会総会を開催しました。年末手当について要求実現に向けた議論を交わしました。

●支社分会

していない。相互運用で担務を掛け持ちして頑張っても給料が下がる。矛盾している(新潟地区) ●エルダーは基本給が少ない。だからポーンナスはたくさん欲しい(エルダー社員) ●夏のポーンナスは少なかった。物価は上がっているし、運転士や車掌、駅員を複数担っている人からすれば、上がらないと納得できない(乗務員) ●社員の働きがい・モチベアップには賃金アップが必要。みんな生活の為に税金が欲しくて働いている(新幹線職場)